

尖閣諸島の帰趨

日本の古代からの紛れもない固有の領土であった尖閣諸島は、誠に残念であるがこの度、中国の暴挙により奪い取られ日本に帰ることはなくなりました。

歴史上の事実から尖閣諸島への中国・台湾からのつながりは皆無であり、唯一日本人に依る島との関わりが記録として残されており、誰はばかることなく主張が出来、証明が出来る日本国の領土です。近隣諸国ともなんの問題もなく周知の事実として国際的にも認められていたものが、ある日突然に中国、台湾が相次いで自国領土であると主張し始めた。なぜか、それは尖閣諸島周辺、東シナ海海域には有望な地下資源が眠っていることが近代の研究により明かされたからである。日本の国の成り立ち、島国である立地条件、古代からさほど隣国との境界について厳しく凌ぎ合いをすることはなかった点。事を荒立てたくなく、喧嘩が嫌いで苦手な国民性。等々で鷹揚な施策を取ってきたことが、今回の帰結に結びついたのであろう。

それにしても眼前でこれだけドラスチックな展開を見せられると、中国のしたたかさ、それに比べて日本のふがいなさが露呈され、何とも情けなく気分が滅入ります。

中国にとって今回の行動は全てがシナリオ通りに進んでおり、脅し、恫喝、日本の首根っこを押さえる術を心得た上のことであり、経済、軍事他全ての面での国力の優位さに裏打ちされた方針であり、自らの主張を貫き、一切の妥協はしないとの声明を出しており、話し合いでどうこうすると言う段階ではない。韓国もロシアも、成り行きを見ており、北方四島も竹島も、もう日本に帰ってくることは無いであろう。

悲しいかな、日本は先の大東亜戦争で敗北しました。それで日本は二度と戦争はやらない、出来ない国になることを選択しました。その選択は間違いではなかった。経済発展もした。豊かな市民生活も得た。世界の先進国の仲間入りもした。平和な国になった。

しかし、周りの国々はそれぞれの道を歩み、日本に同調することは無かった。強力な軍事力を構築した。そして全ての面で大国になった。大国になれば無理が通り、道理が引っ込むことになる。これは太古からの定義なのであろう。不条理に腹が立っても、耐え忍ぶしか道はありません。堪忍袋の緒を切るわけにはまいりません、いや、切れない国の形となって居ります。

すぐ、国際正義、国際社会に訴えてといいますが、この国際正義ほどいいかげんなものは無い。国際社会の不誠実でたよりなさは事実が証明しています。国際連合がなんかの役に立ちますか。常任理事国という、拒否権を持った国が居座っている限りいざとなったら何も出来ないでしょう。されば同盟国のアメリカはどうか。残念ながら自国の国益が優先に来ますから期待は出来ません。「お互いに、よく話し合って解決して下さい」の差しさわりのない仲裁に終わります。

日本は戦争をしないが、確固たる強い信念を持ち、戦争以上に大きなエネルギーを自国の平和維持に使わなければならないだろう。

強大な軍事大国となり、無理難題を相手国に押し付け、否応無くをねじ伏せ、屈服させて自国の利益のみを追求する、卑しく、品格の無い国にはなりたくない。

日本が出来ること、日本が世界に先駆けてやっていかなければならないことは沢山あるように思える。地球規模で考えてゆかねばならないことが沢山ある。負け犬の遠吠えではなく、人類の叡智を集積しこの愛すべき地球を救い存続させるのは、日本民族の使命であることを、声高らかに宣言し、崇高で強い正義感で世界に訴え、それが出来るのはわが日本民族であることを自身に言聞かせ、溜飲を下げよう。

落胆することは無い。未来は日本の精神を囑望しているのだ。



昨年の今日発行の「恒星会ひろば」どえりゃ～ニュースとして紹介しました。米大リーグ、マリナーズのイチロー外野手が9年連続の200本安打を達成、もう1つは、国産ロケット「H2B」で350キロ先の国際宇宙ステーションに無人補給機をドッキングさせた。と伝えました。

1年後の今日、イチロー外野手の10年連続200本安打達成。国産ロケットによる小惑星探査機の「はやぶさ」が60億キロメートルの苦難のたびを終え、地球に生還したという、ちょ～どえりゃ～ニュースをお伝えすることが出来ることに、幸せを感じます。ものすごいことであることは皆さんが既にご存知のこと。こんな明るいニュースをどんどん発信できる日本にしてゆきましょう。

